

日本史籍講読3－Ⅳ

科目ナンバリング JPH-406

選択必修 2単位

深谷 幸治

1. 授業の概要(ねらい)

後期のこの日本史籍講読3B-IIでも、前期のそれと同様に中世から近世前期に至る史料・記録等を主体として読んでいき、受講学生諸君の形成するグループ毎にその内容を調査し報告してもらうという、演習に近い形式で授業を進めていく。ただし史料の読みについては、各人の能力向上をはかるため、受講学生全員に順番に割り振って読んでもらいたい。

2. 授業の到達目標

過去の人々が残した史料・記録等を読み込んでその内容を知り、背景などを調査・報告することにより、受講学生諸君が当時の社会の実情を知ると共に、その解説と調査・報告の方式を知ってもらう。それにより各人のプレゼンテーション能力を高め、また卒業論文作成時の史料等の情報収集・分析・記述の能力を向上させ、もって論文の作成にも貢献することを目標とする。

3. 成績評価の方法および基準

出席は成績評価の前提となる必須条件である。それを満たした上で、後期最後の授業時間に実施する試験の解答内容を勘案して、成績を評価する。

4. 教科書・参考文献

教科書

特定のテキストは使用しない。必要な史料等は、担当教員が毎回プリントを作成して配布する。

5. 準備学修の内容

中世とその周辺の時代の史料等は、当然ながら古文・漢文もしくはそれらの混交分によって書かれている。また使用されている漢字は、高校までで学修する当用字体ではなく、正字体(旧字体)である。それらを読める能力が必要になるので、古文書学の授業も併せて受講したり、また高校時代の古文・漢文の教科書などを取り寄せて復習したりすることが重要。

6. その他履修上の注意事項

少人数授業であるから、必ずグループ報告が廻ってくる。その際には協力して報告用のプリント(レジュメ)を作成してもらう必要がある。

また以下の授業内容はあくまで予定であり、状況によっては変更されることもあるので、承知しておいてもらいたい。

7. 授業内容

- 【第1回】 ガイダンス。後期の授業の進め方、報告の様式などの説明。後期用のグループ分けを実施。初回から報告は無理なので、時間があれば若干古代・中世古文書学についても授業形態で触れておきたい。
- 【第2回】 上の続き、古文書学についての説明。
- 【第3回】 後期の学生諸君のグループ報告1回目。室町時代の日記。
- 【第4回】 グループ報告2回目、室町時代の寺院記録。
- 【第5回】 グループ報告3回目、室町時代の行政文書。
- 【第6回】 グループ報告4回目、応仁の乱時期の記録。
- 【第7回】 グループ報告5回目、引き続き応仁の乱時期の記録。
- 【第8回】 グループ報告6回目、戦国家法。
- 【第9回】 グループ報告7回目、戦国大名文書。
- 【第10回】 グループ報告8回目、再び戦国大名文書。
- 【第11回】 グループ報告9回目、織豊期文書。
- 【第12回】 グループ報告10回目、再び織豊期の記録など。
- 【第13回】 グループ報告11回目、江戸時代前期の日記。
- 【第14回】 グループ報告12回目、江戸時代前期の歴史書。
- 【第15回】 全体のまとめと試験。